

令和7年度第3回会津美里町観光まちづくり推進協議会 開催記録

日時：令和7年11月5日（水）14時00分～15時30分

場所：会津美里町役場 2階大会議室

出席者：10名／12名

事務局：7名

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 協議事項

(1) 第2次観光振興計画（案）について

①序章 観光振興計画について

事務局より前回からの変更点を説明。

②第1章 第1次観光振興計画のふりかえりについて

事務局より第1章の内容及び前回からの変更点について説明。

③第2章 第2次観光振興計画について

事務局より第2章の内容及び前回からの変更点について説明

- ・第2次観光振興計画の基本方針について
- ・重点施策の基本方針について
- ・計画の基本目標について
- ・戦略的方針について
- ・施策の柱と重点プログラムについて

④第3章 観光の推進体制と進行管理について

事務局より第3章の内容及び前回からの変更点について説明。

- ・官民連携による推進体制について
- ・計画の進行管理について

(委員長)

前回皆さんからご指摘いただいた、「具体的なこと」がよく反映されていると思う。

私からは、具体的な進行管理のところ、年1回の担当者会議では単なる報告会になってしまい、管理にはならないと思う。進捗管理は進捗を見て次に反映させなければならない

ので、せめて四半期に一度くらいやらないといけないのでは。

(J 委員)

人材が不足しているという話も聞いたので、例えばボランティアを募って伊佐須美神社のしめ縄作り体験を行うのはどうか。私も毎年手伝いに行っているが、東京の方から体験したいとわざわざ来る人がいる。なので、美里町はお祭りが多いため、御田植でも何でも一般の人も取り入れながら行うのも一つの方法ではないか。

(委員長)

観光は輸出産業である。観光資源を輸出して美里町以外のお金を吸い上げるということなので、お祭りも町の中だけのお祭りだと全くお金が入ってこないため、いかに外貨を取り込むかということがポイントになる。

(H 委員)

人材育成と記されているが、どのようにして育成していくのが難しいと思う。まず、やりたいという人がそもそもいることが少ない。そのやりたい人のやる気を継続させていくために、何かうまく仕組みを作っていないとやる人がいなくなってしまう。私も年に数回イベントを開催しているが、毎回毎回人材不足ということを目にしている、私も今後もずっとできるわけではないので、同じようなイベントがしたかったら後継者を作らなければいけないと思う。仕組みづくりをうまくやっていないとは思っているが、なかなか難しい。

(委員長)

町として観光事業にどういう目的で取り組んでいて、なぜ観光事業をやるべきなのかを住民に周知する活動をしてはどうか。何をやるかはこの計画で述べられているが、一番分かりにくいのは、なぜいま観光なのかということだと思う。それに対して皆さんが賛同していただければボランティアも含めていろいろな方が出てくると思う。

(K 委員)

私が感じたことは、やはり只見線の方が入っているなと思う。人も少なくなって来ているが、復活する機運がある。観光に携わっている方々の話を聞くと、只見線で会津美里町という言葉は出てこない。只見線と言えばほとんど柳津町から只見町である。なぜかと言うと、只見川と列車がちょうどマッチする景色があるからだと思う。ただ、美里町には他の沿線市町村にはない寺社仏閣の歴史があるし、伊佐須美神社も中田観音も法用寺も只見線最寄り駅からアクセスできるが、PR 不足があるのかと思う。PR するだけでだいぶ変わるため、受け入れ整備も行いつつ、会津の歴史は美里から始まったという PR は必要で

はないか。

(委員長)

観光というのは基本的に総論賛成各論反対である。お金を落としてくれるのはありがたいけど、家の周りをウロウロするのは勘弁してくれというような感じだと思う。そういう意味では、先ほど申し上げたPRすることはとても重要な部分であると思う。

(G委員)

今ほどあったようにPRはしていけないといけないと思う。コンテンツを作っていくことは入っていると思うが、その作ったコンテンツを知ってもらい来てもらわないといけないので、PRもしっかり進めていかないと作ったものが勿体なくなってしまう。あと、進捗管理のところを進めていくうえで何ができる、できないが出てくると思うが、できないときはどうするのかとか、そういう場合の計画の変更の必要性をどう考えるのかをお聞きしたい。

(E委員)

インバウンドの関係でバスツアーの運行をしているが、大体4泊5日という形で日本人では考えられないような長期宿泊をしているので、そういう方々を呼び込むのもいいのでは。県もインバウンドに力を入れていると思うので、誘客のキャンペーンなどに参加するのも一つの手である。

(C委員)

古い計画から新しい計画ということでガンチャートまで用意されていて、前に比べて明確な資料になっていると思う。実績値のところだが、観光誘客は只見線を軸とするのか本郷焼を軸とするのかそれによって来訪する層が全然違うと思う。このくらいの観光入込客数を目指しますと言っても、そのターゲット層が何人くらい想定されていて、そのうち何%が呼び込めるのかといった計算もあると実現可能な目標値が具体的になるのかと思う。

この間、ニュースで仙台の方でドラゴンクエストのゲームのコラボイベントで2万人以上が来場したということをやっていて、だいぶ大きい話だと思った。本郷でも信長の野望のアプリをやっているが、それによる効果などは測定可能なのではと思うので、効果が上がっているのであれば類似のことをやってみるとか、只見線としても只見線から美里町に来てくださいというよりも何月何日は美里町でこれをやりますみたいな言い方が将来的な習慣づきというか、恒例にもしやすいのかと思う。只見線の魅力をPRに加えて、只見線の魅力をアピールするための上乘せ企画というものが大事になってくるのではないか。

(委員長)

只見線は乗って楽しむ人が多いのか、見て楽しむ人が多いのか？

(K委員)

只見線というのは、もちろん乗って楽しい景色である。そのほかにプラスアルファが大事である。食べる場所や寺社仏閣など。そういうものはPR不足だと思う。

(委員長)

乗っている景色もいいと思うが、只見線が走っている景色は実にすごくいいので、電車に乗らないファンも多いのではと思う。美里自体、電車で来ることが少ないので基本的に車で来る人がターゲットになっている。よって、何か両面で美里をPRできるという。

(副委員長)

観光に対して先ほど話が出ているが、何のために我々はどのようにして参加するというような啓蒙的なものは計画では出しにくいとは思いますが必要なのではないかと。やり方の一つとして、前回の20周年記念イベントの時に観光大使の方々に来ていただいた。大使の方々が、すごく闊達で協力的でいつでも協力しますというような話もあった。計画の中では9年からの活動になっているが、もう次年度からやる形とその人たちが地元を巻き込むような仕掛けを作るのはいいことなのではないかと思う。それに伴ってテーマは一応これでいいと思うが、この上の段階のパーパス的なもの、なぜ観光を美里町としては行うのか、美しい里になるための観光というものなのかといったような、何かビジョンの上にあるものが挙げられるともう少し分かりやすくなるのではと思う。計画に書く、書かないではなくて、その意識を糧に町民の方、来訪者の方にお伝えしていくことがこれからの観光の中で一番大事なことなのではないか。ただお金を落としてくれる、落としてくれればいいということではなくて、ここに来ると幸せとお金を使える、幸せな時間が使えるというような形にしていくことが大事だと改めて思う。

(委員長)

最近のキャンプ場の入込状況はいかがか。

(副委員長)

10月に観光大使のトークショーをやりながらイベントを開催した。単価を決めて入場料を徴収して行ったが、なかなか地元の人に集まっただけだと改めて実感した。なので、その動機をどういう風に見せるのかということ次年度は考えていきたい。

また、10年くらい続けているエクストリームという犬の障害物レース大会を開催して

いるが、犬だけで200頭くらい来るので、当然、人も200人は来る。そこにプラスアルファ家族で来るなどで300~400人程度は来ている。その方々を一つの商材というか、ツールとして、地元と関わらせるような形を模索した方がいいだろうという感じである。

(委員長)

観光大使の話が出てきたので提案だが、観光大使マニュアルを渡さないか。(初対面の方には観光大使の名刺を渡してくださいなどを記載)大使をお願いしているのではなく、大使に任命しているので。

(副委員長)

観光大使をイベントに呼ぶにあたり、今は町が所管となり観光大使とやり取りをしているが、その部分を例えば観光協会に預けるとか何かもっとネットワークができる環境を整えた方がいいのでは。町の場合、行政という形になるのでなかなか言い出せないこととか、費用的な問題もネックになる。これは観光協会なのか振興公社がいいのか、この協議会がいいのかは議論すればいい話だが、もっとネットワークを強く持てるような形の方が、例えば観光大使と行く温泉ツアーとか、観光大使とのランチツアーなどを開催することができ、地元の人も入ってきやすい。ただ、ギャラを取る人が多いので、それをどのようにして町の事業だからということで交渉できるような環境が整うと良い。観光大使の窓口は一つの方がやりやすいと思う。

(B委員)

地元の観光大使の方で、三十三観音巡りのツアーを企画してくれている方もいるし、学生時代の同窓生との親睦旅行をワインフェスに充てていただき、20人程度来場された。それから、観光大使にイベントに出演してもらうとなるとお金がかかる。地元の方は比較的安く済むが、なかなか有名な方が多いので何十万円という金額になってしまう。それから、8ページにインフラの整備について、前から観光協会も山城のサイン整備の要望書を出しているが、山城は国の指定になっているのでなかなか整備が難しい。観光課の方も生涯学習課と協議していただいて、早く解決してもらいたい。なぜかというと、新聞にも掲載されていたが、今年の10月に文化庁が三十三観音を訪れ、認定継続の調査に来られた。よって、すぐそこまで来ているということなので、ただ何も講じないでおくのはよろしくない。

(委員長)

三十三観音以外にも何もしていない場所がいくつもあるということか。

(B委員)

そうである。

(委員長)

今言われたことは非常に大事な観光資源の保全なので、今後の計画の中にも大きな役割になると思う。他に何か意見のある方は？

(B委員)

35 ページの高田地域の重点観光スポットの構築のところに天海大僧正のことが書かれていない。徳川三代将軍に仕えた天海大僧正の生まれ故郷が美里町ということで、私達も全国的にPRさせていただいている。また、PRしながら大河ドラマの署名運動もさせていただいている。

(委員長)

一番危惧することは、その証拠があるかということである。結局今これだけ様々な虚偽の情報が流れ飛んでいて、本当は違うとかフェイクニュースだとか大きな話題になる。昔からこういう風に言われていますよと話として伝わるのがいいと思うが、突き詰めてここは生誕の地だとそれをストーリーにしてテレビドラマ化にしてしまったときに、本当に美里町に人が来て証拠出してくださいということに繋がると非常にまずいのではないか。美里に伝わる一つの話としてはいいと思うが、町を挙げて全体的に天海大僧正の生誕の地だと言ってしまっているのか。今こういう時代なので、すぐ揚げ足を取るなどをする人がいる。そういうマイナス要素が出てくるのが怖い。

(G委員)

天海大僧正の話で言うと、今までいろいろやってきているわけであって、じゃあ使う時にどうするかみたいな話ってすごくもったいないというか、今までやってきたことは何だろうとなると思う。天海大僧正だけではなくて、歴史の起源は結構曖昧なところがあるので、みんながみんな重箱の隅を突いて突き詰めているかということ、突き詰めていないと思う。今まで観光協会さんが一生懸命やってきた実績をそのように言うのはちょっと違うのではと思う。天海大僧正通りとかもできているので、それを継続していった方がいいのでは。

(委員長)

私もそういうお話を守っていくことはいいと思う。そういう風に伝わっていますよ、会津美里町で生まれたと言われていきますよということまで、あまり突き詰めてしまうと突っ込まれてしまうのでお話を伝えていくことが大事だと思う。

(副委員長)

高田地域における重点観光スポットの構築については、何を核としての観光施策であって、B委員さんやG委員さんがおっしゃったことは、全体の観光施策の中でやるべきものでいいと思う。委員長がおっしゃったのは、あくまでもこの重点スポットとしての取り組み方としては天海大僧正ではないよねということだと思う。龍興寺は載っているのに、龍興寺関連で天海大僧正のPRを行ってあげばいいだけの話なので、天海大僧正をここに入れなければいけないというのは、伊佐須美神社を核とした観光振興施策とうたっている以上、どこに入れていいか分からない感じになる。

(委員長)

私としては中立の立場だが、町の考えはいかがか。

(事務局)

住民向けに各地域の特色のアンケート調査を行ったが、特に高田地域においては伊佐須美神社が圧倒的の一番ということで統計的にも出ている。また、2030年の本殿再建が決まったと伺っているので、この計画の中で一番バッターとして取り上げるべきだと思っている。本郷地域においては向羽黒山城跡並びに本郷焼、新鶴地域においては温泉や運動施設などを一番バッターとして進めていきたいと考えている。

(委員長)

いずれにしても今の部分については、議論するテーマとしても面白いと思うので、次の計画の中でまた議論できればと思う。

(K委員)

美里町は一番三十三観音も多いし、神社仏閣といってもやはり伊佐須美神社、中田観音、法用寺と歴史がある。中田観音は1279年(弘安2年)に創建されたので、あと4年で創建750年になる。美里町は歴史のまちとPRしているが、あれもこれもありますというPRをしていいと思う。PRしてここは本当に歴史の町なのだと思います、そこに今度はフルーツの魅力もプラスしていくことができる。

(委員長)

やはり歴史というのは皆さん興味がある部分で、これだけ素敵なものがあるのは素晴らしいと思う。その中に天海大僧正を含めてさまざまな話があるということは、とても豊かに感じる。総合的に歴史の町ということはいい考えだと思う。ただそれだけでは人は来ないので、来た人にお金を落としてもらう工夫を合わせて行うことが観光である。まず、住んでいる方に、自分の町にこれだけ素晴らしい観光資源があってこれだけ歴史が

あるところに住んでいるという自覚を持っていただくことが大事だと思う。

(事務局)

委員の皆様から貴重なご意見をいただき、大変ありがたい。

その中で関係人口の確保や地域住民の賑わいということで、高田地域本郷地域におけるまちなか賑わい創出でやる気のある若い方々に参加いただき、活動が活発になるような取り組みを今後町としても続けていきたいと考えている。そういった取り組みを通じて町でできること、地域住民に協力いただくこと、地域住民が民間の力で実施することなどさまざまな取り組みを重点プロジェクトという形で町の財源を確保した上で進めていきたい。

また、PR についてだが、今までは広域連携ということで会津若松市を中心とした会津地域の市町村で構成される極上の会津プロジェクト協議会において、連携して町の観光PR を行っているが、来年度から白河市から美里を含む奥会津までの広域の協議会が新たにできる見込みとなった。会津若松市を中心とした部分と、こちら側の甲子道路の方を中心とした観光誘客のルートで、さらに会津美里町のPR を努めていきたい。

(K委員)

猪苗代町とは何か連携して行っているのか？

(事務局)

今のところ直接的な取り組みは行っていない。

(K委員)

新鶴温泉にも写真があるが、野口英世の母が中田観音に月参りしていたこともあるので、今後の猪苗代町との関わりはどうか。

(事務局)

猪苗代町とは今のところ関係性はないようだが、関連する部分としては当然、中田観音なので会津三十三観音での関わりが、今後可能性としてあるのではないかな。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より今後のスケジュールについて説明。

- ・ 議会への報告 (12月)
- ・ パブリックコメント実施 (12月)
- ・ 書面会議 (2月)
- ・ 庁議決定 (3月)

4. その他

(副委員長)

41 ページの「広域観光の中で町の観光の露出を高める」の中に、あやめサミットも入れているのでは。継続性があるものであれば、ここに入れられると思うので追記できればと思う。追記するかは事務局に任せるが、既存で行ってきていることは明記しておいた方が分かりやすい。

(事務局)

皆様からいただいたご意見を反映し、再度チェックをして議会への報告、パブリックコメントで町民の皆様からもご意見いただきたいと思う。

5. 閉会